

復テ対策レポート

応用力を身につけるコツ

成績向上委員会

- ・著作権は成績向上委員会（株式会社アップツー）にあります
- ・本内容の一部または全部を複製および転写することを禁じます

講座生のみなさんへ

こんにちは、タイガー山中です。

これまで発表しましたレポート「時間短縮のマジック」「鮮度を保つための工夫」は読んでいただきましたか？

いや、実践していただいていますか？

「時間短縮のマジック」では、

どうしても、A問題の正答率が上がらない！

何回やっても、時間短縮ができない！

という方へのヒントとして、

「鮮度を保つための工夫」では、

1ヶ月前にやった問題でもすぐに忘れてしまう！

という方へのヒントになればと、私が実践している **ちょっとした工夫** を公開しました。

現在実践されている復テ対策講座にプラスして「時間短縮のマジック」「鮮度を保つための工夫」を活用してもらうことを改めてお願いしておきます。

さて、今回はさらにハイレベルな親技を紹介しようと思います。

応用力を身につけるコツ

についてです。

親であれば、誰もがわが子に身につけさせたいと思うのではないのでしょうか？

「考える力」ともいったりするアレです。

「応用力」という言葉の響きに親の方が弱いのを私はよく知っています。生徒さんの親に「最近、応用力が身につけてきていますよ」と言ったときのうれしそうな顔といたらありませんから。

そんな「応用力」ですが、中学受験や高校受験でいう「応用力」ってどんな「力」だと思いますか？ イメージとしては、

「偏差値60を超えるため」に必要な力

と感じる方が多いかもしれません。偏差値60にどうしても届かず、「うちの子、応用力がなくて・・・」と嘆くお母さんをよく見かけますから。

ただですね、私、タイガー山中が思う「応用力」はちょっと違います。

たとえば、同じ偏差値60の二人がいるとします。わかりやすくするために教科を揃えて「算数」が偏差値60の二人です。

偏差値60



この二人の算数の「応用力」は同じといえるでしょうか？

まず言えることは同じテストで同じ偏差値（点数）を取ったわけですから、同じレベルの問題が解けたということは間違いありません。

とはいえ、二人の「(応用) 力」は同じではないことに気づくでしょうか？

私が実際に多くの生徒を指導してみて気づいたことです。同じ偏差値60の二人を指導して、**さらに偏差値5UPしようとしたときの大変さ**には明らかな違いがあります。ある子供は時間がかかり、ある子供はスッと上がったりする。

同じ点数を取って、同じ偏差値の二人でも持っている「もの」が違うのです。

この違いは何か？

ということになりますが、言葉ではうまく言い表せないのですが、



という言葉が近いように思います。もちろん、偏差値50の二人であっても持っている力は同じではないということです。

別に「応用力」という言葉にこだわる必要はないんじゃない！？

と聞こえてきそうですが、「いえいえ、こだわりますよ！」

どんな「力」を身につけさせたいかによって、やり方だって違うわけですから。

親のみなさんが、わが子に身につけてほしいのはどんな「力」なのでしょう？

「偏差値60を超えるためだけの力」なのか？

「偏差値60を超えても伸び続ける力」なのか？

私が考える「応用力」とは、この「伸びしろ」を考慮した「偏差値60を超えても伸び続ける力」とであると定義させていただきます。

前置きが長くなりましたが、そんな応用力を身につけるコツについての話です。

きっと難しいじゃない？

と心配だと思いますので最初に言っておきますが、**ハイレベルな親技**であることは間違いありません。だって、塾の先生といった指導する側の人間ですらこんなこと（テクニク）を考えている人は少ないと思います（笑）

じゃあ、なんでタイガー山中は親にそんな高度なテクニクを紹介するのかという話ですが...

まず、偏差値60を目指すだけであれば、別に身につける必要はありません。

今やっている復テ対策講座にプラスして「時間短縮のマジック」「鮮度を保つための工夫」を活用してもらえれば十分に可能ですから。

偏差値50から10偏差値を上げることだって可能です。

では、なぜ？ってところですが、ちゃんとした理由があります。私個人の意見でいえば親の方みんなにおススメしたいぐらいです。

なぜなら、

おもしろいから！

子供の勉強をそばで見るって大変ですよ。親の時間だって拘束されるし、毎回のテストには追われる日々が受験まで続くわけだし。

私たちの「親技」は辛いことが多いのも事実です。でも、親にとってのご褒美だってあるから頑張れるわけです。わが子が成長している姿をそばで見ることができるとかね。

でも、「応用力を身につけるコツ」はちょっと次元が違うと思います。ハマる人にはハマります（笑）

マニアックかもしれませんが、おもしろい。感動ものです。学生のとくにパチスロの機種の攻略法を見つけたときの感動に近いというか...。失礼しました。

冗談はさておき、子供たちのレベルアップをより感じるからこそ、おもしろいと思うのです。次元の違うおもしろさです。

偏差値60からがなかなか伸びない

という方にはもちろんのこと、

偏差値は関係なく、どうしても短期間で上げたい

といった方にも参考にして欲しいですね。今のやり方で頑張ったとしてもいつまで経っても現状維持だといけないので。

まあ、参考にするかどうかはお任せしますので具体的な話を進めていくとしましょう。

先日、N能研の5年生のお父さんから相談がありました。普段からそばについて勉強を見ているそうで復テ対策講座の「いけドン法」を実践されており、成果も出されています。

内容はこんな感じです。

小5の娘についての相談

■現状：

N能研の5年生で偏差値は64。

■相談内容：

最難関校を目指しているが合格圏内に入るには算数で偏差値を5上げたい。
うちの子には「偏差値をさらに5上げる力」はあるのだろうか？

成績でいうと、すでに上位10%ぐらいには入っているわけですが、さらに上を目標にしたいそうです。

でも、伸びしろはあるのかな？

といった相談です。

そこで、算数の公開テストを見せてもらうことにしました。成績表ではありません。偏差値は64だとわかっていますし、これからの伸びしろは現状の偏差値だけではわからないというのは先ほども述べました。

私が参考にするのは、実際の問題用紙の余白に書かれた式や計算のあと、そして問題に引かれた線など。これを事細かに見ていきます。

何をするかといえば、

テストを解いている時の頭の中に入り込む

わけです。前回のレポート「鮮度を保つための工夫」にある親子で向かい合っ
て確認をするときの作業に似ています（笑）

どのように考えて答えを出したかを余白に書かれた式や計算のあとなどから確かめていきます。私が「伸びシロ」を確認するときのやり方です。

この子の場合、偏差値64ということもあり、テスト中にしっかり頭が回転しているのがよくわかりました。無駄も少なくコンスタントに偏差値65近くをとるのも頷けました。

やはり、「伸びシロ」は間違えてしまった問題で判断すべきでしょうか？

もちろん、間違えた問題は要チェックです。

どこまで考え、答えに辿り着けなかったのか？

これだったら次回は取れるだろうと判定できれば「伸びシロ、見つけ！」になります。この問題は今の段階ではちょっと無理かなとかを判定していくわけです。（この部分は教務力が必要なため「応用力を身につけるコツ」には含まれませんのでご安心を）

偏差値64ぐらいになると落とした問題なんて少ないのは当然のこと。伸びシロ探しも難航するものです。時間無制限で解くとなれば「これも解けるだろう」というのはありますが、時間内を考えるとなかなか更なる得点アップは難しいですから。

そんなときに忘れてはいけないことがあります。「応用力を身につけるコツ」でも大切なチェックポイントです。それは、

正解だった問題の解き方はベストだったか？

ということです。

テストでは正解すればOKと考えがちですが、さらに点を取るためには「解き方」にもこだわる必要があるのです。偏差値60を超えても伸び続ける力を身につける親技では。

ちなみに、こんな感じでチェックをしていきます。

1) いつもと同じやり方で解いたのか？

いつもと同じやり方で正解したのであれば文句のつけようはありませんが、テストのときはいつもやっているベストな解き方とは違う解き方で正解することがあります。その場合、家庭学習で「この解き方」を徹底させることで時間短縮が可能になり、他の問題に時間をまわせます。

もし、いつものやり方で解けていても今後の可能性を見つけるためにはチェックを続けます。

2) もっと時間を短縮できる解き方はないか？

さらに難易度は上がりますが、途中の計算の仕方や余白の使い方などを含めて、もっと時間を短縮できる解き方を考えていきます。

3) 次の問題につながる解き方だろうか？

大問の(1)(2)は正解、でも(3)は解法すらわからなかったという場合には、正解した(1)(2)の解き方に問題があることがあります。では次につながるちゃんとした解き方って何？と考えていくわけです。

実際に、お父さんにチェックをしてもらおうと2)で2問、3)で1問見つけました。点数でいうと15点分ぐらいは上がる可能性があるという結論に至ったわけです。私も同じ意見でした。あとは日々の勉強に落とし込んでいきます。

その1つがこれです。実際に見てもらいましょう。

$$1.25 - \frac{1}{2} \times \left\{ 1\frac{2}{3} - \left(\square - \frac{1}{12} \right) \right\} = 0.5$$

□にあてはまる数は何になるか？実際に解いてみてください。ストップウォッチ（キッチンタイマー）で時間を計ることをお忘れなくですよ。

どのくらいの時間で解ける問題だろう？

「解き方」というよりもまずは「時間」について考えて欲しいのです。

分数を習った小4であれば解ける問題ですから、のちほどお子さんに解いてもらう問題を準備していますので、まずは親のみなさんが解いてみてください。

実際の回答がこれ↓

$$\begin{aligned} \frac{5}{4} - \frac{1}{2} \times \left\{ 1\frac{2}{3} - \left(\square - \frac{1}{12} \right) \right\} &= \frac{5}{4} - \frac{1}{2} \times \left\{ \frac{4}{3} - \left(\square - \frac{1}{12} \right) \right\} = \frac{3}{4} \\ \frac{4}{3} - \left(\square - \frac{1}{12} \right) &= \frac{3}{4} \times \frac{2}{1} = \frac{3}{2} \\ \square - \frac{1}{12} &= \frac{4}{3} - 1\frac{3}{4} = \frac{1}{6} \\ \square &= \frac{1}{12} + \frac{1}{6} = \frac{3}{12} = \frac{1}{4} \end{aligned}$$

正答率 50%ぐらいの問題ですから答えが合っているだけでもすごいです、これを

2) もっと時間を短縮できる解き方はないか？

に該当すると判定したわけです。単に急いで解くなんてダメですよ。この子の場合、今ですら猛スピードで書いているわけですから。

時間短縮するための「解き方」について考えるのです。

ところで、どのくらいの時間で解くべき問題だと思いますか？

私の感覚ですと、小5で偏差値60を目指す子であれば**1分30秒以内**と
いったところですか。小4だと2分以内でもいいかな。ただ、受験生の秋ぐらい
になれば1分を切るようになって欲しいですが。

実際に解いてみるとどのくらい時間がかかるでしょう？

子供たちに1分30秒以内で解けるといって、多くの子は「**そんなの無理**
～！」って答えるでしょう。得意ですからね、無理と決めつけるのが（笑）

私が生徒に言うのは、

もし、1分30秒以内で解けたらスゴくないか！？

ということです。

無理！と決めつけたがる子供たちと一緒に考えるべきは

もし、1分30秒で解けたらどんな良いことがある？

だということです。さて、あなたならわが子に何と言いますか？

時間が短縮された分、他の問題に使える

というのがすぐに思い浮かぶ利点ですが、子供たちにはこちらの方が響くかも
しれません。

その分、勉強時間が減るぞ！

すぐに「無理！」なんて言う子供たちが好きな言葉です。「努力＝勉強する時間」と考えている子供たちは努力を最小限にする提案に興味を示します。

まだまだ考えてみましょう。「どんな良いことがある？」の数が多くなればなるほど、トライする価値が出てくるわけですから。

「お母さんがうれしいから」と言って子供も反応がよければそれでも構いません。言ってみて、反応が悪ければ「まあ、それはいいんだけど」とごまかして次を考えればいいので（笑）

私が子供たちに「解き方の改善」をすすめる1番の理由は、時間短縮ではありません。もっと大きなメリットがあります。

それは、

ミスが減る

なんですね。

時間短縮するための解き方とは、言葉でいえば

「シンプルな解き方」または「無駄のない解き方」

となるでしょう（一緒のことかな）。

「シンプルな」「無駄のない」なんて聞くとすごくハイレベルな感じがしますが、それほど難しいことではありません。

式を書くなら長いよりも短い方がシンプル。余白に筆算をするなら問題文の遠くよりも近くに書く方が無駄はないといえますから。

そんな

ちょっとした工夫

をしていくことこそが、「応用力を身につけるコツ」になります。いろいろな工夫を1つ1つ積み重ねていくことで「伸びしろ」を広げ、レベルアップするのです。



この工夫は、「偏差値60以上」の話に限ったことではないことにお気づきになるでしょう。

偏差値50の子にとっては、工夫の余地なんてまだまだあるでしょう。偏差値40であればさらに簡単に見つかるはずですし、その分成果を早く出すことができます。

ここまでの話を聞いて、「応用力を身につけるコツ」に興味がある講座生のために、実際に「そのコツ」とやらを体験していただき、コツをつかんでいただきたいと思います。

さあ、講座生のみなさんにも参加してもらいながら進めていきましょう！

それではさきほどのこの問題ですが、このレベルの問題をサクッと最速で解けるようにするにはどういった勉強の工夫が必要か？について一緒に考えていきましょう。

$$1.25 - \frac{1}{2} \times \left\{ 1\frac{2}{3} - \left(\square - \frac{1}{12} \right) \right\} = 0.5$$

実際に体験してもらうために5問ほど計算問題を準備しました。

最初は簡単な問題からはじまり、徐々にレベルが上がって最後が↑の問題です。

この5問を以下の手順でやってみてください。報告いただきましたら「応用力を身につけるコツ」のアドバイスを添えてお返しします。

1) プリントアウトして、子供に解かせる

※途中の式なども余白に書かせて消さないこと

2) 親は1問ごとに時間を計り記入する

※時間を書くのを嫌がる場合は全問終わった後に記入してもよい

※学年、ハンドルネームを記入してください

3) タイガー山中に報告する

※解答用紙1枚の写真画像（携帯で撮影したもの）またはスキャンした画像を study@oyawaza.com に送るか、FAX（020-4663-5590）してください。

次の式の□を求めよ（監督者は時間の経過を記入してください）

$$\textcircled{1} \quad 1 - \square = \frac{1}{5}$$

(分 秒)

$$\textcircled{2} \quad 5 \times \square = 3\frac{1}{3}$$

(分 秒)

$$\textcircled{3} \quad (\square + 3) \times \frac{1}{3} = 7$$

(分 秒)

$$\textcircled{4} \quad 7 - (13 - \square) \times \frac{1}{2} = 2$$

(分 秒)

$$\textcircled{5} \quad 1.25 - \frac{1}{2} \times \left\{ 1\frac{2}{3} - \left(\square - \frac{1}{12} \right) \right\} = 0.5$$

(分 秒)

学年：小学 () 年 ハンドルネーム：()
